

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2070800327
法人名	医療法人 柳泉会
事業所名	グループホーム 柳橋
所在地	長野県小諸市諸407 (電話) 0267-26-6613

評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年1月12日

【情報提供票より】 (平成19年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤 0, 常勤換算	14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有 (円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成19年11月15日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	0	要介護2	7		
要介護3	3	要介護4	7		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 89.6 歳	最低	63 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・柳橋脳神経外科	・小諸厚生総合病院	・木村歯科
---------	----------	-----------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

浅間山の裾野の丘陵地にホームがあり、日本家屋の玄関側から上手にぶどう畑があり、下手には田畑をばさんで国道が走り、スーパー、住宅も広がり、天気の良い日には遠くに富士山が見える。ホームの庭は広く、大きな樺や松の木がある。垣根に沿ってブルーベリーの木が植えてありイチゴ畑もある。今年は豊作で入居者が2～3週間ブルーベリー摘みを楽しんだという。コンポストが4個設置してあり畑の肥料用となる。帰宅願望の強い入居者には職員が同伴し、車から自宅の周りを眺めたり、誰もいない自宅に入り中を見たりしている。また、自宅ではなく隣家の友人に会いに行くなどホームの支援で気持ちが癒される場面づくりがされている。地域密着型サービスの始まる以前より、入居者が生活してきた場所を生活の一部と考えている。そうした想いが、地域との交流の輪を年々大きくしている。広域の同業者とは相互訪問を実施し、更なるグループホームの向上を目指し切磋琢磨している。入居者一人ひとりが安心と尊敬のある生活が送れるように創意工夫し、職員が懸命に尽くしていることがひしひしと感じられるホームであった。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の改善点である洗剤の置き場所は、洗剤が入居者の目にはふれないように鍵のかかる棚の中に保管されていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
重点項目②	自己評価は、全職員が関わり作成された。改善すべきところは話し合っ改善している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
重点項目③	定期的に運営推進会議が開かれ意見交換が活発に行われている。会議の中で研修会や学習会を企画する事もあり、その講師をホームの理事が務めることもある。議事録は詳細に記録されていた。また、月一回小諸市召集のグループホーム部会が開かれ、高齢者福祉課の担当職員をはじめ、包括支援センター職員等と各ホームでの問題や制度上のことなどが話し合われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
重点項目④	家族等からの意見や要望を積極的に伺えるよう努めている。面会時に伺うほかに、毎年行っているアンケート調査は匿名で答えて頂くことで、言いにくいことも積極的に言っていたり工夫がなされていた。また、アンケート結果は職員はもちろん全家族にも配布している。頂いた意見や要望等には直ちに対応をしている。
	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	小学生が定期的に訪問している。お花見と一緒に出掛けたり、運動会や音楽会等の行事に招かれたりと交流している。開設後間もなく始まった小学生との交流はその子供たちが中学生になると、ボランティアとしての活動にも発展し継続している。子供たちとの交流が深まる中で、保護者からも声がかかるようになり、交流の輪が広がっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	制度がかわった時点で、地域密着型サービスの意義や目的を理事と管理者から職員に説明している。ホームの理念には地域という言葉は含まれていないが、入居者を支援するケアの中では実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	合同職員会議で理念が実践されているかなど話し合いが行われている。理念はスタッフルーム等に掲示し、目に入りやすいように工夫されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流には積極的に取り組んでいる。特に小学生の訪問が定期的にある。お花見にも一緒に出掛けている。小学校の運動会や音楽会にも招待されている。交流が深まるにつれ保護者からも声がかかるようになった。開設間もなくして始まった小学校3年生との交流は中学生になってもボランティアに形をかえて継続している。新たな小学生の訪問もあり、現在はクリスマスリース作りをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果から洗剤の置き場所を検討し改善した。洗剤は入居者の目にはふれないように鍵のかかる棚の中に保管されていた。自己評価は常勤者が中心に行い、他の職員に配布し、意見を聞いた上で完成させている。		

グループホーム柳橋

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議が開かれている。議事録も詳細に記録されていた。会議では勉強会も開かれている。講師はホームの理事がつとめ、分かりやすく話し、その後メンバーらと意見交換をしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月一回小諸市主催のグループホーム部会（4事業所）で高齢者福祉課の担当者、包括支援センター職員等と各ホームで困っている事や制度のことなどを相談したり、話し合いをもっている。不明なことは何でも遠慮なく聞いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月グループホーム通信を発行し、暮らしぶりや予定などを知らせている。面会時には健康面のことを伝える他、介護計画や金銭管理などは定期的に家族が確認しサインを頂いている。緊急時等については電話連絡で対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等で家族から意見や要望をいただくことは行っており、毎年、アンケート調査も実施している。アンケートは匿名とし、言いにくいことも積極的に言ってもらえるよう工夫している。頂いたアンケートはまとめて職員はもちろんだが、全家族にも配っている。意見、要望等があれば直ちに対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの入り口には職員の顔写真と役職氏名を掲示し、家族等に紹介している。離職者はいたが、職員の異動は極力抑えて馴染みの支援に努めている。		

グループホーム柳橋

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に参加した後は報告書を作成している。また、職員会議でも内容の報告をしており、参加者はそれを今後どのように活かしていきたいのか等心構えも発表している。研修や学習会の機会が多いことを伺えた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入し、講習会、ホーム相互訪問を実施している。昨年12月から佐久圏域に連絡会が設立されたが、今年1年間は認知症、制度について、接遇対応等の勉強会や相互訪問等を試験的に行い、来年4月から本格的になることである。相互訪問は他のホームを知らないスタッフが多いので勉強になると期待されている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居するにあたり、自宅や医療機関等へ職員数名が訪問している。入居当初は帰宅願望等が強く不穏状態に陥ることもあり、家族に協力をお願いすることもある。職員は入居者と一日も早く信頼関係が築けるようにと努めている。馴染むまでに一ヵ月位かかる入居者もいる。納得してからは例え入院しても、ほとんどの入居者が再入居を望んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者からは生活の知恵を教わったり、時には突然現役主婦に戻った入居者から、昔の苦労話を聞き、自分の人生相談にのってもらったこともある。		

グループホーム柳橋

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉がうまく言えない入居者であっても、長くお付き合いしていると、入居者の様子を見ただけで何をしようとしているのか理解できることがある。日常的にその入居者の気持ちになって考えるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの意向や要望を確認し、職員からは入居者の困っていることや気づいたことなどを聞く等した上で、担当者が介護計画を作成している。家族には面会時などに説明し確認のサインを頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	特別な状態変化などがあれば内容を変更し、現状にあった内容に修正や追加をしている。状態に変化がなければ3ヵ月、6ヵ月と継続しながら見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が宿泊することもできる。また、家族が希望すればホームの車を貸し出すこともしている。家族に代わって買い物や通院に付き添うこともある。		

グループホーム柳橋


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望でかかりつけ医から通院可能な医院へと主治医が変更になっている場合もある。通院は看護師が必ず付き添い、日頃の様子を伝えている。主治医以外にも病院や専門医院を受診することもある。体調を訴えられない入居者もいるので、健康チェックは綿密に行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」が作成されている。指針は全職員に配布され、読み合わせも行われるなど前向きに取り組まれている。家族には入居時に説明がされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者とのかかわりの中で常にプライバシーに留意しながら実践している。個人情報の保護の取り扱いに関しては職員指導がされている。例えば、退去先を聞かれた場合は「ご家族に聞いて頂けますか」、暮らしぶりを聞かれた時は「お元気ですすよ」等と職員間で申し合わせがされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはあるが、入居者の希望を優先している。外出や買い物、入浴など一人ひとりの気持ちを大切にして柔軟に対応し、決して無理強いはしていない。		

グループホーム柳橋

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は気分良く食事ができるように配慮している。フロアによってはBGMを流したり、テレビ（NHKのニュースを必ずみる入居者がいる）が小さい音でついていた。入居者と職員は食事の準備、食事、片付けを一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む入居者がいたが、試行錯誤の結果、「入浴予約券（当日のみ有効）」なるものを発行し気分良く入浴して頂いている。浴槽内にも手作りの椅子が設置されるなど安心して入浴できる工夫もされていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	グループホームに仕事に来ていると思っている入居者には、まず一番に声をかけている。また、見守りをしている入居者には理事さんが毎朝「昨夜はどうでしたか」と報告を聞いている。また、お茶の先生だった入居者には皆さんのお茶を入れてもらったり、歌の好きな入居者には合唱のリードをお願いするなど、張り合いがあり、喜びが感じられる生活になるような働きかけがされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩以外の外出時には車で懐古園、高原美術館、マンズワイン庭園、ハローアニマルなどに出かけている。また、ドライブで入居者の自宅そばまで行くこともしている。家の鍵を預り、入居者の家に行つて中をみってくるなど、入居者の様子で個別対応することも積極的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には家族の了解の上、簡単な鍵がかかっている。外出傾向の入居者がいるため、職員は見守りや所在確認を行っている。		

グループホーム柳橋

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を実施している。地域の住民も参加し行われている。夜間を想定した訓練では入居者参加で行われている。夜間の勤務者が少ないため、緊急時には近くにある同法人の施設や病院から応援が得られる体制が構築されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士が定期的に献立を確認している。個別に摂取量は記録され、また水分量については大まかに把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな加湿器が2台設置されている広いホールには、食堂のテーブルのほかに窓側にソファが置いてあった。入居者は思い思いの場所で音楽を聴きながらくつろいでいた。居間から季節の移り変わりを窓越しに感じることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	8畳強の広めの居室には、衣類や寝具のほかに家族の写真や日頃から慣れ親しんだ小物等が持ち込まれていた。持ち込みの物については、多い少いはあるが、一人ひとりの要望や家族の意向にそって居室作りがされていた。		

※  は、重点項目。